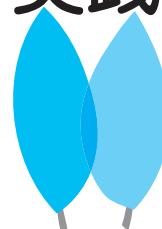


第2回

限界集落での地域リハビリ活動の実践 —(1)概要

本田哲三

昭和伊南総合病院リハビリテーションセンター センター長、医師



はじめに

周知のとおり「地域リハビリテーション（以下、リハ）」は、行政的にも広く用いられ包括的な概念として確立している¹⁾。その歴史は1960年代にさかのぼり、その後「リハマインド」にあふれた先駆者により営々と実践されて今日に至っている^{1)~3)}。さらに介護保険制度導入後には予防的活動の必要性も指摘されてきた⁴⁾⁵⁾。

以上の経過を背景に、筆者は現代日本の社会的問題の1つである限界集落における地域（巡回）リハ実践の機会を得た（以下、本事業）。本連載では2回にわたってその経験を報告する。

本事業について

本事業の対象母集団は、平成20年7月15日時点で南信州西南地区限界集落（62集落）登録の介護保険・要介護認定者169名である。このうち調査協力を得られた106名（調査予定110名中、調査時入院3名、不在1名）に生活実態訪問調査を行った。さらに長野県南部地域リハスタッフの全面的協力を得

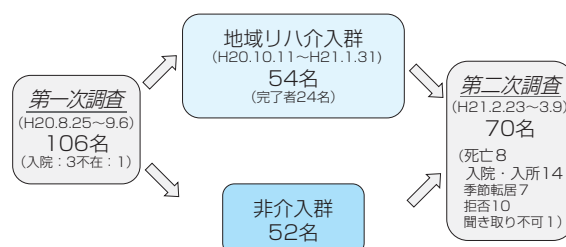


図1 調査の流れ

て、泰阜村と天龍村限界集落在住の要介護者計54名を対象に地域リハ活動を試行した（図1，詳細は第1回本連載「2013年8月号」を参照されたい）。

地域リハ活動内容（図2，図3）

本事業では、リハ医療チーム（リハ医、PT、OT、MSW（医療ソーシャルワーカー）中心、症例によりST、義肢装具士も参加）により以下の①～④の活動を行った。

①「リハ診断・処方」

リハ医により疾患・障害を診断・評価し、投薬処方（主治医へご連絡）・身体リハ治療処方を含む参加者個別のプログラムを作成・処方した。

②「身体リハ治療」

リハ医の処方に従って、スタッフ（PT/OT/ST）

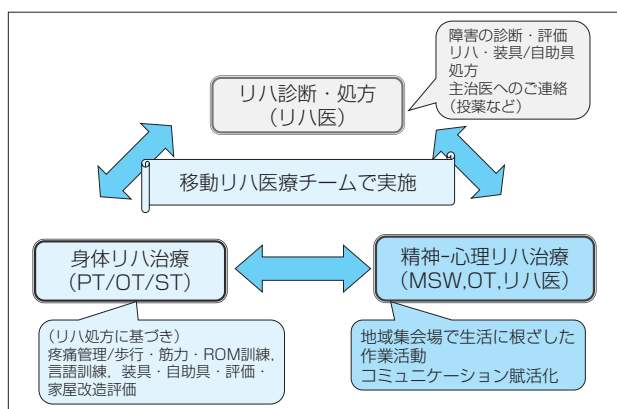


図2 事業内容

表1 対象者疾患名

	主治医意見書 疾患名	リハ医 追加疾患名
骨・関節・運動器	20	11
脳血管障害	2	0
神経・筋疾患	2	2
認知症	3	1
ほか	4	1

(1人に複数の病名あり)

が疼痛管理・装具/自助具処方・歩行/筋力訓練・言語訓練などを実施した。

③「地域集団リハ活動」

参加者の精神的賦活を目指して地域集会所にてリハスタッフ（リハ医/OT/MSW）主導で個々の身体・認知的障害と生活背景に合わせて地域生活に即した作業活動およびコミュニケーション賦活化を実施した。具体的には以下となる。

- i) MSW:「人間関係構築」の専門家として、参加者同士・参加スタッフの融和（人間関係の回復）に努める。（例：自己紹介から始まり、ふるさと自慢などの話題の提供。参加者の会話への参加促がし）
- ii) OT:参加者が共同でできる地域に密着した作業（例：しめ縄づくり, 干し柿づくり, 郷土料理など）を選択し全員で協力しながら共同作業を行うように配慮する。

④ 環境調整（住宅改修を含む）

リハ医/PT・OT/建築家/大工/リハ工学士などが在宅を訪問し家屋改修や生活補助具導入を指導した。



図3 地域リハ場面

(会場でリハ医・セラピストが評価)

表2 個別介入結果

リハ医療の立場から重要な疾患名追加 (手根管症候群, 筋ジストロフィー, パーキンソン病, 白蠟病)		4名
主治医先生へご連絡(投薬・装具証明書など)		2名
リハ医療的介入	身体的リハビリ 疼痛管理・筋力増強・ROM訓練・歩行訓練	16名
	末梢神経訓練	1名
	補装具(含, 靴補修, ケロイド圧迫板)・自助具杖の評価・処方・使用法指導	10名
	言語・嚥下障害評価/治療	4名
独居者緊急通報方法介入		2名
環境調整(含, 住宅改修)・訪問指導		5名
精神・心理的リハ評価・治療		全員

(重複あり)

事業結果

1. 限界集落要介護者の主疾患

南信州過疎地在住の要介護者は、脳血管障害は少なく運動器症候群（ロコモティブシンドローム）と認知症が多かった（表1）。

2. (リハ) 医療的介入結果（表2）

(1) 診断名の追加：重要な疾患名が追加された。

- ・手根管症候群：ご本人の誤った（T字）杖の選択・使用により歩行時の手掌圧迫の結果、痛み・手内筋の麻痺が生じてADL上支障をきたしていた。ロフストラッド杖への変更・末梢神経訓練により痛みは改善した。
- ・筋ジストロフィー（Limb-Girdle型）（疑）：事

- ・「足が痛くて一度は田畑を辞めようとしたが、
痛みが減って田畑をしまわなくて済んだ」
(70 歳, 女性)
- ・「痛みがなくなった。やる気が出て農作業が
できるようになった。皆でやった脳トレで
また新聞が読みたくなった」
(71 歳, 男性)
- ・「ショップライダー（四輪駆動車）のおかげで、
足の痛みもなく授産所に通えるようになった」
(77 歳, 女性)

図 4 本活動参加者の声

業参加前は「廃用」とされてきたが、両下肢の近位肢帯筋中心の筋力低下から「筋ジストロフィー（Limb-Girdle 型）（弧発例）」が強く疑われた。生活指導（起居動作・洗面所など環境調整）を行った。

- ・パーキンソン病：従来は、「（廃用による）寝たきり」とされ ADL 全介助状態だった。ドパストン投与により、起居動作・歩行が劇的に改善した。
- ・白蠟病：従来は慢性関節リウマチとして対応されてきたが、ビタミン E およびプロスタグランディン投与により手指の痛みは激減した。

(2) リハ医療内容

リハ医療として、おもに①主治医への連絡、②リハ処方、③補装具/杖/自助具処方、④環境調整、⑤地域集団リハ指導を実施した。内容は運動器症候群への一般的なリハが中心となったが、必要に応じて実施した補装具・歩行補助具の処方・指導も重要だった。さらに、独居・孤立の結果と考えられる声量低下例には ST による訓練が有効だった。

(3) 全般的印象

本地域リハ活動を通じての全般的印象を述べる（非介入群との比較による有効性の検証は次回連載予定）。

まず、リハチーム医療の有効性が過疎地における巡回リハでも改めて確認された。参加者からはさまざまな感謝の言葉が発せられた（図 4）。

さらに、集団リハ活動は精神的賦活の意味で有用であった。伝統行事を実践することで認知症の方の眼の輝きが戻ったケースもあった（次回提示）。

また、本事業を通じて普段交流が途絶えているご近所さんとの付き合いが復活した。実際、お手伝い



図 5 巡回リハ場面

お年寄りとお子さんの自然な触れ合いが出現

をお願いしている方ご家族との自然な交流の場が出現した（図 5）。

おわりに

本稿では、筆者の地域リハ活動経験の概要を報告した。今回は、非介入地域（対照群）との比較による本活動の有効性と明らかになった諸課題を述べる。

筆者の経験の浅さから本連載ではさまざまな誤解や不備な点があるや、と危惧している。先達諸兄にはご容赦いただくとともに、ぜひご指摘・ご指導いただきたくお願いいたします。

謝辞

稿を終えるにあたり全面的にご協力いただいた松島貞治 泰阜村村長をはじめとする行政の方々および 70 名を超える飯伊地域リハスタッフの皆様に深甚の謝辞を表します。

文献

- 1) 大田仁史：地域リハビリテーション活動の歴史。大田仁史（編）：地域リハビリテーション論 ver. 4。三輪書店、pp1-7、2009
- 2) 澤村誠志：実践地域リハビリテーション私論 ユニバーサル社会への道標。三輪書店、pp7-38、2005
- 3) 浜村明徳（編）：地域リハビリテーションプラクティス—くらしを支える地域リハビリテーション。医療文化

- 社, 2004
- 4) 澤 俊二: 介護保険とリハビリテーション. 大田仁史 (編): 地域リハビリテーション論 ver. 4. 三輪書店,

- pp51-95, 2009
- 5) 大田仁史, 他 (編): これからのリハビリテーションのあり方. 青海社, p20, 2004

○『作業療法ジャーナル』

第47巻第 10 号(2013年 9 月号)

特集/理論と技術の活きる関係

座談会: 理論の本質を探る—今必要とされている理論, これから必要とされる理論

..... 東 祐二, 宮崎宏興, 古野優子, [司会] 荻山和生

作業療法の理論展開の歴史と今後—1990 年以降に着目して..... 田島明子

Case Study: 地域生活する A さんへの支援で OT は何をなぜそうするのか?

..... 朝倉起己, 笹田 哲, 宮口英樹, [事例提供] 荻山和生

作業療法理論の分類と技術, および対象とする課題..... 宮前珠子

作業療法の理論と技術の関係を考える—精神科領域..... 富岡詔子

講座 作業療法のための薬の知識 最終回

神経難病に対する新しい治療薬..... 檜皮谷泰寛, 他

講座 研究論文の読み方 第 3 回

量的研究論文の読み方..... 飯脇健司

連載 凸凹さをもつ人たちに「みる, きく, 感じる, 考える」ための支援ガイド 第 3 回

融通の利かなさとトレーニング..... 宮口幸治

連載 当事者に聞く 自立生活という暮らしのかたち 第 3 回

道具を使いこなす人..... 河本のぞみ

連載 患者と治療者との間を生きる 第 3 回

医療職との関係 (後編)..... 押富俊恵

症例報告

3 年間の振動刺激治療がもたらした慢性期胎児性水俣病患者の ADL 能力の向上..... 遠山さつき, 他

実践報告

認知症作業療法における家族支援を中心とした在宅復帰プログラムの試み..... 松尾涼太, 他

覗いてみたい!?先輩 OT の頭の中 第 9 回

..... 東京リハビリ訪問看護ステーション 芳野 緑

協会長対談

演劇の手法を用いた医療コミュニケーション教育 (後編)..... 平田オリザ×中村春基

※都合により内容に変更がある場合がありますのでご了承ください。

発行・発売: 三輪書店 1 部定価 1,838 円(本体 1,750 円)増刊号を含む年ぎめ予約購読料 26,040 円(本体 24,800 円)